

解説

附属中学校 3 年 音楽科

タイトル：オリジナル『我が祖国』をつくろう

授業者：向田瑞貴 教諭

解説タイトル：

民謡の編曲から生まれる新たな表現 — 音楽科における創造的思考力の育成

コンピテンシー育成開発研究所
特任講師 Claudia Gherghel

「オリジナル『我が祖国』をつくろう」は、スメタナ作曲の交響詩『我が祖国』より〈ブルタバ〉の作曲プロセスを模倣し、生徒が自ら標題を設定して旋律を変形・構成し、独自の音楽作品を創作することを通して、創造的な音楽表現力を育む実践である。授業では、民謡を素材に情景を象徴する音楽を作り出すというスメタナの方法を体験させ、生徒自身が自分の祖国を音楽で描くことを目指している。

本授業の中心的な資質・能力として育成が図られているのが、**創造的思考力**である。これは、「新しいアイデアを生み出したり、既存の枠組みにとらわれず柔軟に考えたりする力」と定義され、問題発見や発想、試行錯誤、表現の修正や改善といった思考の一連のプロセスにわたる能力である。創造的思考は、単なるひらめきではなく、既知の知識や技術を統合し、価値ある新たな構成を生み出す力であり、音楽科における創作活動とは深く関わる。

この授業では、創造的思考力の育成に向けて段階的かつ多様な仕掛けが設けられている。たとえば、旋律の素材として用いる日本の既存曲を、原型のまま、または変形させて用いることが可能であり、その選択と加工の過程で「標題にふさわしい音楽とは何か」を生徒が主体的に考える機会が与えられている。また、音楽創作ソフト「カトカトーン」の導入により、音楽理論に精通していなくても音楽を可視化・構造化しながら試行錯誤できるよう設計されており、創作過程の中で自然と拡散的思考（自由な発想）と収束的思考（取捨選択）を繰り返す構造が成立している。

また、授業後半では他者の作品を聴いて意見を交わす相互批評の場が設けられており、メタ認知的に自らの作品を振り返る機会が確保されている。生徒は他者の表現から新たなアイデアを得ると同時に、自分の工夫や表現意図を見直し、作品を再構成するという創造的省察のプロセスを経験する。本授業では、既存の音楽素材に敬意を払いながら、そこに自らの情景や感情を音に結晶させるプロセスを通して、創造的思考力を核としたコンピテンシーの育成を実現する、音楽科ならではの実践といえる。